

# TATSUOKA



ギフチョウ

竜丘に舞う、氷河期の妖精

## ロマン溢れる学びの丘 共生のまちづくり

竜丘地区基本構想  
2014-2030

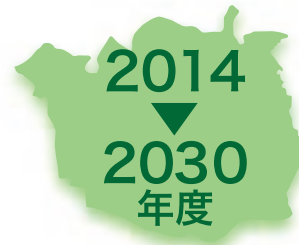
平成 26 年 3 月発行  
竜丘地区基本構想策定委員会  
長野県飯田市桐林 505 番地  
(竜丘自治振興センター内)

竜丘地区基本構想

2014



2030



# 竜丘地区基本構想



竜丘地区(駄科・時又・長野原・桐林・上川路)、それゆれの力こぎの戦いに熱い声援を飛び交い、地区の団結もますます力強く!「竜丘市民運動会」。



鎌倉時代(約750年前)から伝わる「時又初午はだか祭り」馬や酒樽を形どった神輿を担ぎ、裸の男性が天竜川の冷水を浴びながら奇あう勇壮な神事。毎年3月の第二日曜日。



竜丘には、142基も古墳があったと伝えられます。多くが消滅して、現存する古墳は30基余です。この「塚原二子塚古墳」は長さ72mの大型前方後円墳で、築造は6世紀前半と推定され、飯田市の史跡に指定されています。

## ロマン溢れる学びの丘 共生のまちづくり

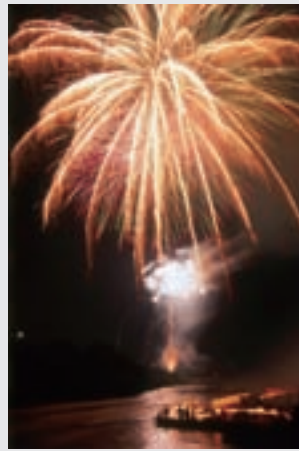


ロマン溢れる学びの丘  
共生のまちづくり

# 竜丘地区基本構想

2014

2030  
年度



# TATSUOKA

<b>第1章</b>	<b>基本構想の策定にあたって</b>	
	1 構想策定の趣旨	2
	2 構想の性格と社会的背景	4
	3 構想の期間	5
	4 構想の進行管理	5
<b>第2章</b>	<b>構想の目指すもの</b>	
	1 竜丘地区の特色	6
	2 目指す将来像	8
	3 将来像を実現するための基本的な考え方	10
	4 基本構想の体系	13
<b>第3章</b>	<b>「7つの丘づくり」による展開</b>	
	1 住民の支え合いによる丘づくり	14
	2 地域資源の保全・活用、景観形成による丘づくり	16
	3 災害予防活動と豊かな人間関係による丘づくり	20
	4 歴史文化の活用で人材育成を進める丘づくり	23
	5 - 1 地域産業の振興と地域ぐるみ支援による丘づくり	28
	5 - 2 秩序ある適正な土地利用による丘づくり	31
	6 地域力の強化による丘づくり	34
<b>第4章</b>	<b>基本構想を実現するための戦略的取り組み</b>	
	1 目指すべき将来像を実現するための手立て	37
	2 短期的、中・長期的な位置づけによる重点事業	38
	3 「環境・文化地区」とは	38
<b>資料</b>	<b>・沿革</b>	40
	<b>・基本構想策定の経過</b>	45
	<b>・基本構想策定委員名簿</b>	49
	<b>・住民・こどもアンケート結果</b>	51

## ごあいさつ

竜丘地区としては、初めての基本構想が発刊の運びとなりました。

基本構想の多くは、すでに各地区の住民自治組織において策定されており、それに基づき、地域の特色を生かしたまちづくりが進められています。

平成23年には竜丘自治会が中心になり、竜丘地区基本構想策定に向けた検討を重ね、翌年の6月には、地区内の各種団体、地域の代表など55名の皆さんに策定委員を委嘱しました。その後、策定作業を進めた結果、このたび完成し、皆様に配布できることとなりました。

私たちの子供や孫が主役を担う時代を見据え、基本構想の期間を2030年までとするとともに、今日まで多くの先人達が築いてきた竜丘に住みたい、住んでみて良かったと思えるよう、まちづくりの基本的な考え方とその取り組みを明らかにいたしました。時代はめまぐるしく変化しており、5年に一度は、その時代に合わせた見直しを考えております。

策定委員をはじめ関係各位のこれまでのご尽力に感謝申し上げます、発刊のご挨拶といたします。



平成26年3月  
竜丘地区基本構想策定委員会委員長  
長谷部 進

念願の「竜丘地区基本構想」が出来上がりました。長期にわたり策定に携わった委員の皆さんに対し、厚く御礼申し上げます。

平成25年度から「竜丘自治会」と「竜丘地域づくり委員会」が一本化され、「竜丘地域自治会」がスタートしていますが、このタイミングで基本構想ができたことは幸運と言えるでしょう。

竜丘地区の目指すべき将来像を実現するため、重点的な取り組みとして「環境と文化」に力を入れていくこととなりました。まちづくりの主役は、地域住民です。地域住民の創意と汗の流し方で、これからの地域の在り様が決定付けられます。今や時代は急速に変化しており、先もなかなか読めません。しかし、ここに盛り込まれた内容は、地域住民の願いが込められており、その内容は豊富で且つ多様です。短期的に取り組めるものもある一方で、10年経っても達成できないものもあるでしょうが、実現に向け、努力をしていくことが極めて重要です。

この基本構想が今後とも活用され、将来像が実現できますよう、関係各位のご協力とご支援をお願いするとともに、取り組みの過程において、竜丘らしいものが一つ一つ積み上げられていくことを期待いたしまして、挨拶とさせていただきます。



平成26年3月  
竜丘地域自治会会長  
木下 和彦

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## 第1章 基本構想の策定にあたって

### 1 構想策定の趣旨

竜丘地区は、142基もの古墳があったことが記録に残されており、さらに飯田下伊那にある前方後円墳20数基のうち、9基があることが確認されています。このことは、当時この地域が、大和朝廷による東国経営の拠点で、中央と強いつながりを持っていたことを意味しています。

江戸時代、中馬は陸上の運輸手段であり、地区内を横断している遠州街道は主要な街道筋でした。また、天竜川の通運については、当時、時又港がその役割を担っていました。

明治に入り、五カ村が合併をして竜丘村となり、昭和31年9月に飯田市と合併しました。竜丘地区においても、高度経済成長の波が押し寄せ、私たちを取り巻く生活環境は大きく変化しました。特に、国道151号の改良に伴い、桐林と駄科を中心としたロードサイドに新たな商圈が生まれるとともに、農地の宅地化が進み、地域全体が都市化するに従って、様々な問題や課題が発生してきています。



時又港と天竜川

一方、国においては、1991年にバブル経済が破綻し、少子高齢化と人口減少による社会保障費の増大や公共投資の拡大等により財政難に陥りました。また、各自治体においては、特色ある地域づくりが求められ、明治以来の中央集権体制が硬直化したことで、平成12年には「地方分権一括法」が施行されました。これにより、市町村の補助金依存体質からの脱却や自主財源確保に加えて、特色ある地域づくりや自らの力で地域を経営するといった「地域の自立」が求められています。



鈴岡城址公園

右肩下がり時代となった今、国においては、「規制緩和」や「構造改革」が、地方においては「行財政改革」が、そして、地方議会においても「議会改革」が断行されています。それでは、一体、地域においては何をなすべきでしょうか。

こうした時代背景を受け、平成19年4月から自治体の憲法ともいわれる「飯田市自治基本条例」が施行されました。条例の第9条第1項では「市民は、まちづくりの主



鷲流峡



ギフチョウ

体として、市と協働し、地域社会の発展に寄与するよう努めます」さらに第2項において、「市民は、互いの活動を尊重し、自らの発言と行動に責任を持つものとします」としており、「市民の役割」を明確に規定しています。

今日的な課題と市民の役割を規定している自治基本条例を踏まえた時、私たちは、自らの意識を少しでも自分のまわりに向け、将来の子どもたちと地区のために、「竜丘地区をどのようにしていったらよいか」また、様々な課題に立ち向かい、「自立的なまちづくり、地域づくりにつなげていくためにはどうしたらよいか」を考え、方向性を見出していかなければなりません。

持続可能なまちづくりを実現するためには、竜丘地区の全ての人たちが、様々な場面において、他力本願ではなく、自ら主体的にまちづくりに参画することが、極めて重要です。そこには、歴史に学び、自由教育で培われた自主自立の精神にさらに磨きをかけ、夢と希望を語り合い、地域課題と向き合って解決のために積極的に取り組んでいく姿が求められています。



野口雨情碑に写った桜と青空

「伊那の龍丘」  
伊那の龍丘 桃の花盛り  
春蚕掃きませうか 籠口子編もか  
春蚕毛子になった 日和もよいし  
簇たたいて 桑摘み唄よ

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

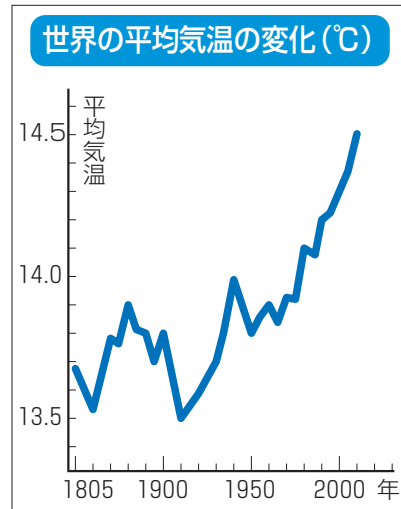
資料

## 2 構想の性格と社会的背景

竜丘地区基本構想は、竜丘地区の今ある自然・文化、さらには人の営みや産業、地域経済等を住民自らが自己分析をした結果をもとに、これまでの歴史的経過と次に示す社会的背景を踏まえ、新たな時代を切り拓くための地域づくり、まちづくりの方向を示すものです。

- ・地方自治体が直面する諸課題は「グローバル化」「少子高齢化」「地球温暖化」「都市と農村との格差」などといわれている。
- ・少子高齢化は社会保障費の増大につながっており、社会保障の在り方と税の負担が喫緊の課題で、もはや先送りはできない状況にある。
- ・人口減少は、生活物資等の需要は増えず、これまでのようなマーケットの拡大は見込めない。
- ・リニア中央新幹線の東京と中京圏を結ぶ先行開業（2027年）によるストロー現象が懸念される一方で、地元建設業界への追い風と観光等による交流人口の増加が見込まれる。
- ・地方分権、地域主権、地域内分権の推進は、「受益と負担」の距離を縮め、社会的な課題を自分の問題として考えざるを得なくなる。
- ・地方自治体は財政が厳しくなり、全ての市民要望に応じていくことができなくなってきている。
- ・上記のような厳しい状況の中でも、地域資源（人・モノ・情報等）を最大限に活かして、特色ある地域づくりに取り組んでいる地域も増えてきている。

この構想は、住民自治組織である竜丘地域自治会の活動の目標として活かすほか、竜丘地区に住む全ての人たちの「まちづくりの羅針盤」であり、「自治の力」を高めるための一人ひとりの行動指針とするものです。



目次

挨拶

第1章

第2章

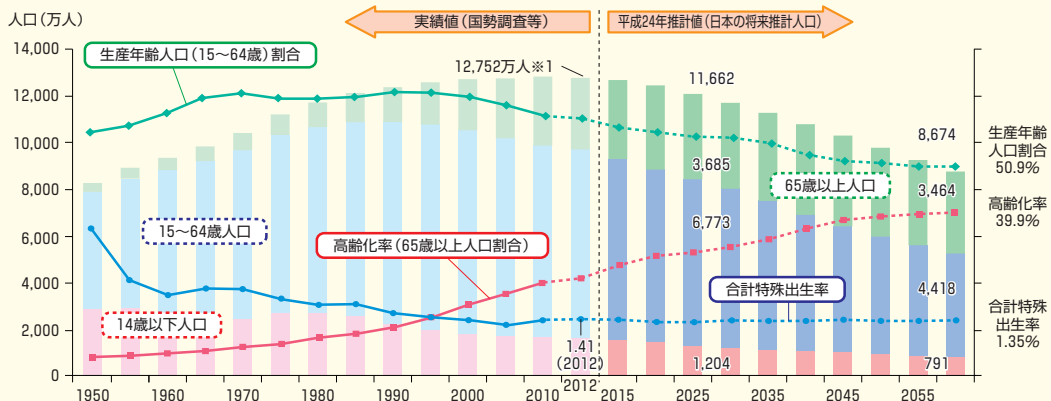
第3章

第4章

資料

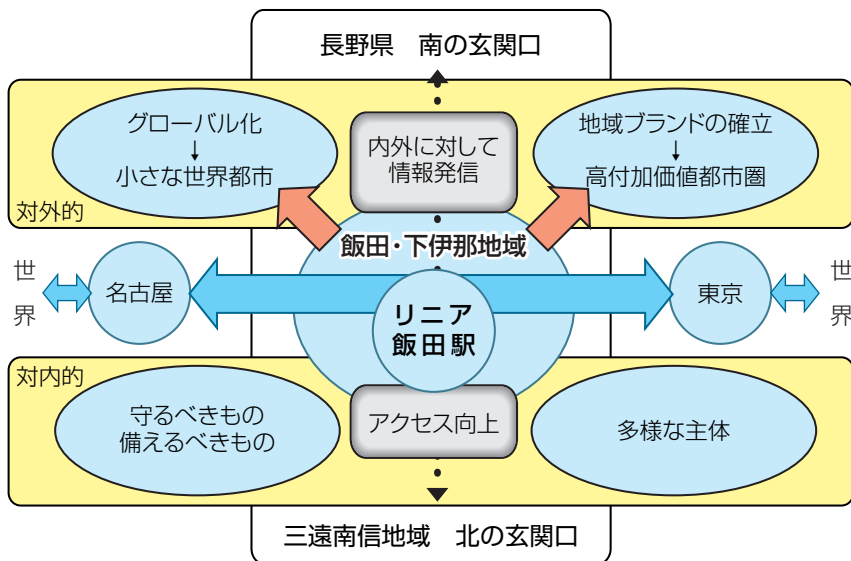
### 日本の人口の推移

○日本の人口は近年横ばいであり、人口減少局面を迎えている。2060年には総人口が9000万人を割り込み、高齢化率は40%近い水準になると推計される。



(出所) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)：出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)厚生労働省「人口動態統計」  
※1 出典：平成24年度 総務省「人口推計」(2010年国勢調査においては、人口12,806万人、生産年齢人口割合63.8%、高齢化率23.0%)

## リニア中央新幹線飯田駅設置を見据えた将来の地域像



### 3 構想の期間

竜丘地区基本構想は、地区の将来像を見据えて、2014年度（平成26年度）から2030年度（平成42年度）までの取り組みの基本的な考え方と取り組みの方向について策定したものです。

基本構想の期間の設定については、10年間を一つの目安に位置づけたものが多い中、当基本構想は、あえて2030年度を構想期間の区切りとしました。

今後、飯田下伊那地域が大きく変貌する要素は、「三遠南信自動車道の全線開通」と「リニア中央新幹線の開通」であり、これら地域の転換期を考慮して、次期構想を策定すべきであると判断し、基本構想の期間を2030年度までとしました。

### 4 構想の進行管理

変化の激しい現代社会においては、10年先や5年先を想像することすら難しいわけですが、基本構想の期間内においては、5年に一度、構想の見直しを行い、その時々々の時代にあったものとしていきます。構想を進行管理する主体は、住民自治組織である竜丘地域自治会とし、構想の実現にあっては、毎年の事業計画と予算に反映させるとともに、決算でその効果を振り返ることで、その実効性を担保していきます。



万寿山

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料



## 第2章 構想の目指すもの

### 1 竜丘地区の特色

#### ■ 古墳と文化財

竜丘地区内には、著名な史跡がありますが、中でも古墳は、その数が実に142基を数え、飯田下伊那地域においては、質量ともに随一とされています。現存しているのは、30基余りですが、中でも大型の前方後円墳が9基あり、御猿堂古墳、馬背塚古墳、塚越第1号古墳は、大きな横穴式石室を持っています。特に馬具にかかわる副葬品の出土が数多くみられ、大和朝廷との密接な関係を窺い知ることができます。また、出土した四仏四獣鏡は国の重要文化財に指定されています。このほか、神社仏閣にも貴重なものが多く、開善寺の山門は国の重要文化財に、また、鐘楼は国の重要美術品として指定されています。

桐林クリーンセンター周辺の里山一帯は、ギフチョウが生息しており、平成元年には環境庁から「ふるさといきものの里」に指定されました。



馬背塚古墳の東石室



開善寺の山門

## ■ 教育文化の起点となった自由教育

大正時代、竜丘地区では、折からの大正デモクラシーを追い風に、「自由教育」が大きな支持を受け広がりました。特に、竜丘の児童自由画教育は全国的にも注目されました。また、大正期の子どもたちの読み物として一世を風靡した「赤い鳥」に児童作品が多数入選し、綴り方講習にも活用されています。このほか、社会教育と相まって広がった「日曜学校」、童謡講演会を企画した青年会や県下唯一の「母の学校」の設立など、これらの取り組みは、その後の住民活動や公民館活動に大きな影響を与え、竜丘地区固有の文化的土壌を醸成してきました。



児童自由画

## ■ 産 業

明治時代、竜丘地区における養蚕は主要な産業でした。農村経済が商品生産に主体が置かれるようになるに従い、金融制度の整備は、農村の発展に欠くことができないものとなり、明治43年に竜丘信用組合が発足しました。ことに、昭和初頭の恐慌時には、農地が農家の手から離れないための配慮がなされるなど、組合が果たした役割は大きいものでありました。

村においては、養蚕家の間で買取があり組合製糸が発足していますが、関東大震災の発生により不況に追い打ちをかけられました。その後、時代とともに養蚕のほか、水引、酒造、織物、製瓦などの産業は次第に衰退していきます。

昭和に入り疎開企業として操業していた多くの事業所は、終戦とともに事業停止または解体されましたが、中でも、カルニュー光学工業株式会社は、当地域に生産の基盤を据えるに至った唯一の工場となりました。また、かつての天龍社時又工場は、飯田市による工場誘致により、その後、飯田帝通株式会社として操業することになります。

近年、オムロン飯田、K O Aのほか、平成9年の通産省エコタウン事業の地域指定をきっかけとして、桐林の環境産業公園を中心に、ものづくり企業が次第に集積し、今日に至っています。



オムロン飯田第2工場



島津デバイス製造カルニュー飯田事務所

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## ■ 自治の確立

新市町村制が公布されたことを受け、明治22年（1889年）4月から、駄科・時又・長野原・桐林・上川路村の五カ村が合併して「竜丘村」が誕生しました。（人口3,009人）

昭和28年（1953年）町村合併促進法により、昭和31年9月には飯田市へ合併し、（人口5,017人）竜丘村役場は市役所竜丘支所となりました。

その後、建物の老朽化に伴い、平成13年、飯田市生涯学習センターとして、竜丘公民館が建設されました。

一方、住民自治組織においては、昭和32年、竜丘自治協議会が発足。その後、地方分権一括法の施行と平成の大合併が国によって推進されました。飯田市では、各地区に地域協議会を設置し、住民による主体的な自治を推進することとしましたが、竜丘地区においては、自治協議会がまとめた「竜丘地区地域自治組織」案に基づき、竜丘自治会と竜丘地域づくり委員会が並列して平成19年度から発足しました。その後、地域自治組織の検証を踏まえ、これまで現存していた二つの住民自治組織は、平成25年4月、竜丘地域自治会として統合され再スタートをきることとなりました。



竜丘地域協議会における審議



天竜川的环境美化作業

## 2 目指す将来像

私たちは、2014年度から2030年度までの竜丘地区における目指す将来像を次のとおり掲げました。

### ロマン溢れる学びの丘 共生のまちづくり

「ロマン溢れる学びの丘」は、竜丘地区における公民館活動を中心とした文化的土壌を意味しており、まさに自主自立の精神の根幹をなすものです。

一方、「共生のまちづくり」とは、地域課題等を解決していくための、未来志向型の新しいまちづくりを意味し、次のような視点で捉えた将来像を提示したものです。

現在、竜丘地区においても、多くの外国人の皆さんが暮らしています。外国人市民の増加と定住化に伴い、言葉、就労、教育、医療等における様々な課題が発生しています。

お互いの文化の違いを認め合い、同じ地域住民としての関わり合いが共に必要とされています。

竜丘地区においても少子高齢化の波が徐々に押し寄せてきています。特に、高齢者や障がい者、老若男女の全ての住民がお互いを理解し、共に支え合うことができるハード及びソフトのバリアフリー化の推進も極めて重要です。

地球規模での温暖化に歯止めをかけるためには、これまで以上に経済活動を含め、私たちのライフスタイルを見直し、常に環境に配慮したまちづくりを進めていく必要があります。桐林クリーンセンターを受け入れ、社会問題化したダイオキシン対策に取り組んできた地区であるだけに、特に、住民、事業者等の関係主体の高い環境配慮への意識の醸成と実践は、先駆的且つ貢献性の高い取り組みとして、大きな意味を持つことにつながります。

以上のように、「共生のまちづくり」とは、自然やお互いの立場を尊重し、地域や地球的な視野で物事を考えるとともに、地域で行動する（「Think global, Act local」）ことであり、その取り組みは、だれもが自立し安心していきいきと暮らし、人と人との交流が深まる持続可能な地域社会を実現していくことにつながると考えられます。



白井林の里山風景



多文化共生フォーラム

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## 3 将来像を実現するための基本的な考え方

将来像「ロマン溢れる学びの丘 共生のまちづくり」の実現のために必要な取り組みの基本的な考え方を次の7つの「丘づくり」とし示しました。

### (1) 住民の支え合いによる丘づくり

当地区も少子高齢化が進展する一方において人々の絆が薄れてきています。

今後ますます需要が増大する高齢者福祉や子育て支援などに対し、行政によるサービスのみではかならずしも十分ではなく、住民同士皆で支え合うという精神を大切にし、地域できめ細かな取り組みを進めることにより誰もが安心して暮らせる社会を目指します。

### (2) 地域資源の保全・活用、景観形成による丘づくり

都市化や宅地化が進展するに連れ、故郷らしい景観や身近な緑が失われてきているほか、ゴミの不法投棄なども増加しています。また、今日社会的背景として自然エネルギーの利用や省エネ・省資源の推進が求められています。これまでのような大量消費・大量廃棄を続ける経済や暮らしを見直し、地域資源を守り活かすことを基本に置いて持続可能な美しい地域を創造していきます。



園児によるサツマイモ植え

### (3) 災害予防活動と豊かな人間関係による丘づくり

東海地震や気候変化などによる自然災害のリスクが高まっています。これらに対しては、隣近所で助け合い被害を最小限に食い止めることを基本に、日常的な家庭での備えや防災訓練を推進するほか、危険箇所や避難場所の周知などを図る取り組みを進めます。

交通事故や火災防止に関しても日頃からの備えが大切なことから意識啓発や防災器具等の普及に取り組んでいきます。また、人間関係の希薄化や格差社会などの進展により、孤立化や精神的な不安を抱える人々が増加しています。犯罪防止などについては、日頃からの声かけや地域活動への参加を進め、豊かな人間関係が根付く社会をつくりまします。



防災訓練（地区災害対策本部）

### (4) 歴史文化の活用で人材育成を進める丘づくり

当地区には、古墳や灯籠流しなど他に誇れる史跡や祭りのほか、大正時代の地域住民を中心とした自由教育活動を基盤とし、今日まで培われた自主自立の精神を貴ぶ社会教育活動の歴史があります。社会の風潮や溢れる情報に流されるばかりでなく、特色ある歴史文化を守り育てるとともに、一人一人が自立した人間形成につながるように、これらを活かした学習活動や人づくりを進めます。

#### (5) - 1 地域産業の振興と地域ぐるみ支援による丘づくり

これまで環境産業公園を中心とした周辺地域の企業誘致は順調に推移し、雇用拡大につながりました。

近年国道沿線には全国チェーン店などが進出する一方で地域の商業、農業などは衰退しつつあります。今後は、行政との連携により地域資源を活用した農、工、商、観光などの発展にも力を注ぎ、多分野で活力ある地域を目指します。また、食料・物資などの購入は地元商店を積極的に利用するなど、地産地消を地域ぐるみで展開していきます。



桐林の工業集積



## (5) - 2 秩序ある適正な土地利用による丘づくり

地区内には道路・河川の整備や下水道の普及が遅れている地区も見られるほか、身近に子供が遊べる公園整備の要望も増加しており、行政と協力してこれら課題の解決を図っていきます。

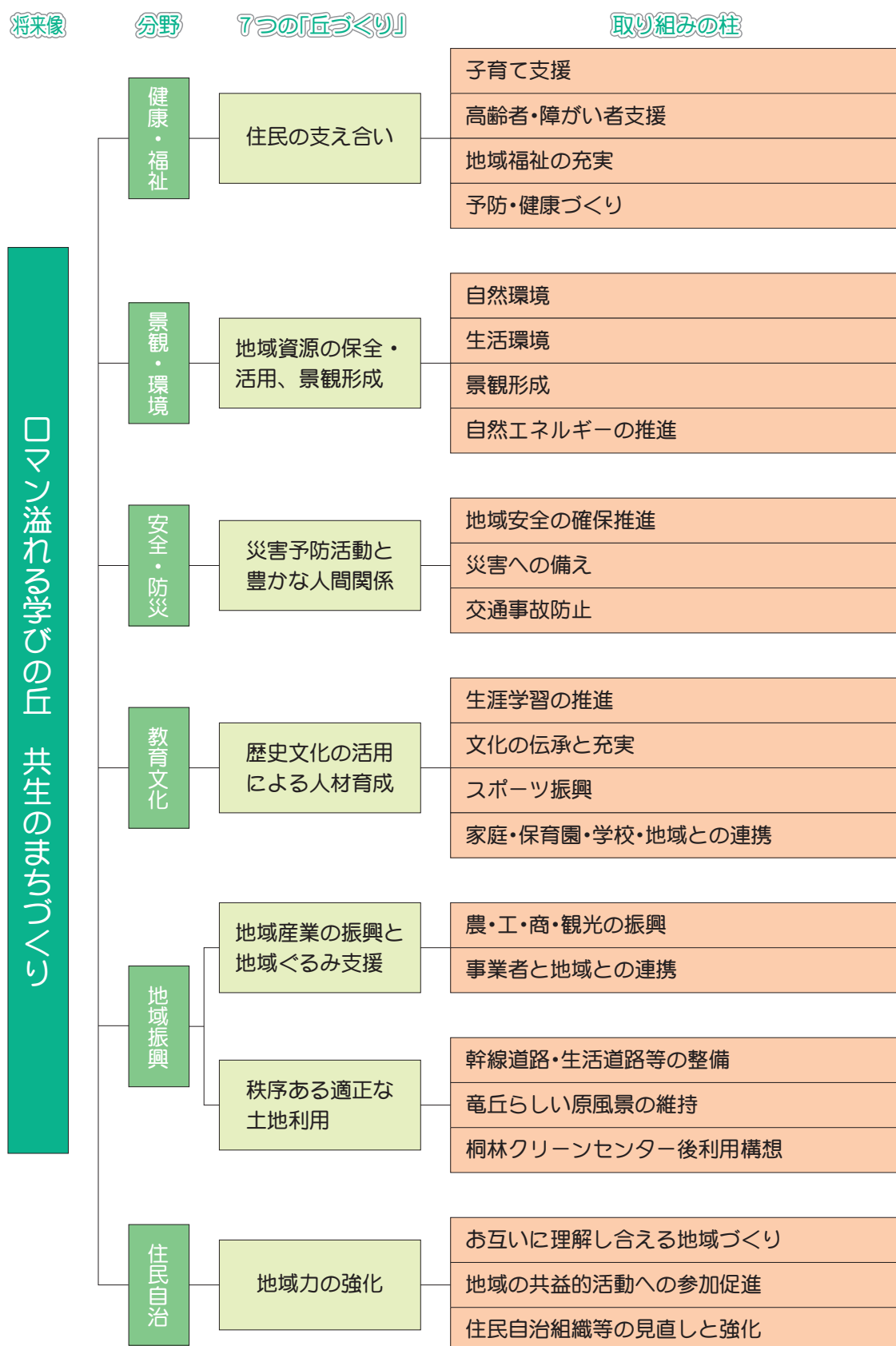
桐林クリーンセンターの後利用については、飯田市・南信州広域連合とともに、検討委員会組織において、その方向性を明らかにし、飯田・下伊那地域の経済的な発展につなげます。

宅地化など無秩序な土地利用の進展による近隣のトラブルや荒廃地の増加など様々な課題が現れてきていることから、今後行政と連携し地域の土地利用の方針を見直し、地区内の自然を守り育てるとともに、人々が安心して暮らせる土地利用を進めます。特に、塚原二子塚古墳と桐林クリーンセンター周辺については、将来にわたって原風景が維持され、地区住民の拠り所となるよう地域ぐるみの取り組みを推進していきます。

## (6) 地域力の強化による丘づくり

組合未加入者の増加とともに、組合単位を基本とした地域力の低下が懸念されています。人口減少と少子高齢化を迎え、様々な地域課題に対処していくためには、住民自らが考え行動できる住民自治組織にしていく必要があります。そのためには、住民同士がお互い知り合うことができる機会や交流の場を多く設け、組合加入を促進するとともに、これまで以上に、住民自治や市政等に関心が持てるような環境づくりを進めます。

## 4 基本構想の体系



目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料



## 第3章 「7つの丘づくり」による展開



みんなの家 めくめく100回記念

### 1 住民の支え合いによる丘づくり

#### 【現状と課題】

竜丘の高齢化率は26.4%と市平均の29.3%より低く（平成25年4月1日現在）、市内でも若い世代の多い地域といえますが、近年出生率に変化はないものの、高齢者世帯は確実に増加してきています。また、特定健診の受診率は33%、がん検診の若い人の受診率が極めて少なく健康への関心が低い傾向があります。

こうした中、住民アンケート結果では、お年寄りにとって暮らしやすい条件として、「健康である」「友達や話し相手がいる」ことを多くの人達が望んでいることがわかりました。今後とも、地域住民一人ひとりが健康増進に努め、心豊かに様々な場でいきいきと活躍しながら、お互いに支え合うことができる地域の福祉力が求められています。

#### (1) 子育て支援

##### 【乳幼児学級の充実と子どもは地域で育てる意識の醸成】

子どもは地域で育てる意識を高め、地区行事への参加や放課後子ども教室・乳幼児学級の充実にも努めます。



乳幼児学級

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## (2) 高齢者・障がい者支援

### 【買物等生活困難者を支える仕組みづくり】

各組合が中心となって、買い物・ごみ出しなど日常生活に支障がある方への支援の仕組みづくりを推進します。

公共交通の利用については、今後とも利用促進を図るとともに、引き続き現行体制が維持できるよう関係機関等へ要望をしていきます。

### 【認知症に対する理解促進と予防事業の展開】

認知症にかかわる健康教室を開催し、認知症の理解を進め、その予防を手助けする健康づくり事業を推進します。

### 【施設や道路のバリアフリー化の推進】

体の不自由な方が安心して生活ができる施設整備や道路整備の推進に努めます。



ひとり暮らし交流会

## (3) 地域福祉の充実

### 【組合単位による助け合いの精神の醸成】

組合を中心に世代を越えた助け合いの精神を醸成するため、挨拶や声かけを大切にします。

### 【気軽に集まれる施設や教室等の場づくりと参加促進】

地域活動への自主的な参加を促し、魅力ある集まりやすい場や教室づくりを推進します。

### 【結婚相談員の複数化による支援体制の強化】

相談員を複数配置し、素敵な出会いの場や相談の機会を設けるなど、結婚支援の体制づくりを目指します。

### 【ボランティアなど福祉マンパワーの育成】

安心して生活できるための支援を担う福祉ボランティアの育成を進め、お互いに助け合う地域福祉を進めます。



ストレッチ教室

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## (4) 予防・健康づくり

### 【食生活の改善や適度な運動等による健康づくりの推進】

健康教室や健康相談を開催し、食生活改善や適度な運動健康づくり事業の推進に努めます。



男の料理教室

### 【特定健診やがん検診などの受診率の向上】

健康相談を活用しながら、自分の健康に関心を持ち、進んで健康診断を受診するための支援を目指します。

## 2 地域資源の保全・活用、景観形成による丘づくり

### 【現状と課題】

竜丘地区は、国道151号沿道の商業集積地として土地利用が進展し、宅地化によって、これまでであった田園風景が失われつつあります。こうした中、桐林クリーンセンター周辺の里山は、ギフチョウをはじめとした貴重な動植物の生息地となっていることから、平成元年に環境庁の「ふるさといきものの里」に指定され、住民による保護活動が続いています。また、地区内には、新川をはじめ多くの河川が縦断しており、昔から農業用水など水との深い関わり合いがありました。住民アンケート結果では、「子どもが遊べる川」「ホタルの住める川」を復活させたいという意見が多かったことから、その親水性が求められています。一方、不法投棄については、名勝鷲流峡周辺をはじめとして後を絶たず、具体的な対策が必要です。



ギフチョウ見学会

かつて、竜丘地区では、大正時代に全国初の竜丘電気利用組合が立ち上がり、久米川及び新川における小水力発電事業により地域産業である製糸業を支えてきた歴史があります。このような地域の歴史に学び、地域の活性化につながるよう現代に活かすまちづくりも視野に入れていく必要があります。

地球温暖化の観点では、地域を問わず、省資源、省エネルギーの取り組みが求められています。各家庭における取り組みを地域全体に広げていくことが必要です。

景観形成においては、嶋地区の環境共生型住宅団地の整備に伴い、住民参加型でまちづくりのルールづくりを行うなど、飯田市初の地区計画の策定につなげ、その



ウェストン碑

役割を果たしてきました。また、三遠南信自動車道の開通等によって、多様な土地利用が生じ景観に影響を与えることも予想されたため、これまでに屋外広告物に関する制限を強化してきていますが、こうした看板規制に留まらず、リニア時代を見据えて、当地区に住んでいる人や訪れる人が、景観に配慮したまちづくりを実感できる取り組みが必要です。

## (1) 自然環境

### 【動植物の保護活動の推進】

数多くの河川が流れ、豊かな里山が残されている当地区には、昔から多くの生物や貴重な植物が棲みついています。一方、外来種の進入による生態系等へ悪影響が心配されています。今後は外来種の拡大を防ぐとともに、在来の貴重な動植物を保護し後世に残していく活動を推進していきます。



ギフチョウの産卵

### 【親水性の高い河川護岸の整備と里山の維持保全整備】

昔の子供たちは、家の近くの小川で泳いだり、魚を手づかみでとったり、秋には里山の中を、きのこを探して駆けずり回って遊んでいましたが、近年、河川の護岸整備や里山に触れる機会の喪失など、子供たちが自然の中で遊ぶ姿が見られなくなりました。

地域の自然に触れ、自然環境の大切さを知ることができるよう子供が遊べる親水性の高い河川の整備を促すとともに、里山の維持保全整備の促進に努めます。

水辺の楽校



目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## (2) 生活環境

### 【シンボルフラワー・ツリー等による快適環境の創出】

統一性のある花木等は、地域の一体感や特色を生み出すことから、竜丘地区のシンボルとしての花木を各家庭等で育成するなど、地域ぐるみで快適な環境づくりを進めます。

### 【地域ぐるみによる不法投棄対策と美化活動の促進】

竜丘地区内において不法投棄が後を絶たない状況が続いています。住民アンケートや子どもアンケートからも、不法投棄やポイ捨てがないまちを望む声が多く、地区住民の環境美化に対する関心の高さが伺えます。これまで以上に、地区内における美化活動を進め、地域ぐるみで不法投棄をさせない、されないための具体的な取り組みを推進します。



竜丘クリーン運動

### 【リデュース・リユース・リサイクル（3R）の推進】

大量消費や大量廃棄に歯止めをかけ、循環型社会づくりを進めるためには、廃棄物の発生を抑え、不要になった物でも使えるものは再利用して、再資源化により違う形にして利用することが必要です。これまでのライフスタイルを見直し、地域ぐるみで3Rの取り組みを推進します。

### 【家庭における環境家計簿の取り組みの推進】

課題となっているエネルギーの確保や地球温暖化に対応し、省エネルギーや省資源など環境に配慮した取り組みを具体化するため、各家庭における環境家計簿の取り組みを推進していきます。



自然エネルギーのワークショップ



地域公共再生可能エネルギー活用事業認定式

### (3) 景観形成

#### 【良好な景観づくりへの参加促進】

竜丘地区の人達が自然や歴史文化に配慮し、良好な景観づくりに参加できる機会等を設けるとともに、竜丘らしい景観を実感できる取り組みを進めます。

### (4) 自然エネルギーの推進

#### 【小水力発電の実証実験の導入】

東日本大震災以降、再生エネルギーの重要性が高まっています。竜丘電気利用組合による水力発電事業の歴史的経過を踏まえ、まずは、地区内において、小水力発電の実証実験に着手します。



歴史から学ぶ地域づくり講演会

#### 【新川等における水力発電事業の復活】

竜丘地区には、大正時代に全国初の竜丘電気利用組合が設立され、住民出資による資金調達を行い、出資者には、地域ぐるみの社会資本整備により配当金がもたらされていました。こうした先人達が取り組んできた地域の歴史に学び、地区内で再び水力発電事業ができるよう検討をしていきます。



久米川発電所跡

#### 【太陽光発電等の利用促進】

地球温暖化防止やエネルギーの海外依存度を低下させるため、公共施設や家庭への太陽光発電や薪ストーブなど、自然エネルギー利用施設の導入拡大に努めます。



太陽光発電を設置している住宅

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料



防災まちづくり講演会

### 3 災害予防活動と豊かな人間関係による丘づくり

#### 【現状と課題】

今日、地震発生の確率が高いと言われている「東海地震」や「ゲリラ豪雨」など気象に関する話題が関心を呼んでいるところです。

また、竜丘地区においても、核家族化や高齢化の進展に伴い、隣近所との交流が希薄になってきている傾向があります。

先に実施したこどもアンケートでは、「犯罪や交通事故が少ないまち」を望んでいる回答結果が一番多かったことから、これら子どもたちの思いを、竜丘地区における今後のまちづくりに反映できるよう努めていかなければなりません。

今後は、空き家等の情報管理や近隣同士の声掛けをはじめとする「地域安全（防犯）」、地震・風水害など有事の際に対応するための「防災」、現代人の生活に欠かすことのできない車社会をより安全なものとするための「交通事故防止」の3点を中心に、住民一人ひとりが、安全・安心に暮らせるまちづくりを目指します。

#### (1) 地域安全の確保推進

##### 【隣近所同志の目配り・声かけ運動の展開】

核家族化や高齢化が進行する中、人間関係が希薄となり孤立化や精神的な不安を抱える人達が増えてきています。今後とも犯罪を防止するため、隣近所の目配り・声かけ運動を推進していきます。

### 【空き家情報の一元化と市との情報共有】

空き家は事故や犯罪につながりやすいため、地区及び市が進めている空き家情報を共有し、管理できる体制を目指します。

## (2) 災害への備え

### 【防災関係有資格者等の人材登録制度の充実・活用】

有事に備え、有資格者等を地区から募り、その人材を有効に活用できる体制づくりを目指します。



避難所訓練

### 【消防団及び日赤奉仕団への活動支援】

消防団及び日赤奉仕団の活動がこれまで以上に充実するよう、竜丘地域自治会で協力できる体制づくりを進めていきます。

### 【自主防災組織の強化】

役員体制の見直しなど継続して活動を行える自主防災組織を構築し、有事の際に対応できる体制づくりを目指します。



消防団 非常招集訓練

### 【地区防災計画の策定と防災資機材等の計画的導入】

有効な防災計画の策定を速やかに行い、併せて、防災資機材を計画的に導入することにより有事に備えていきます。

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料



## (3) 交通事故防止

### 【「譲り合い」と「思いやり」運転の普及と死亡事故ゼロの実現】

「譲り合い」と「思いやり」運転の普及を図るとともに、交通安全教室の実施や通学路の安全点検、登下校時の身守り、シートベルト着用の徹底、広報活動等に取り組み、地区内における死亡事故ゼロを目指します。

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料



交通安全教室



人波作戦

### 【危険運転防止のための啓発】

スピードの出し過ぎ、無免許運転、飲酒運転等を撲滅するため、地域ぐるみで啓発活動に取り組みます。

### 【地区要望等による道路等の危険箇所の解消】

地区から出される要望活動（土木・交通規制・交通安全施設）を有効かつ継続的に行い、道路等の危険箇所の解消を図ります。



念通寺の石仏群

## 4 歴史文化の活用で人材育成を進める丘づくり

### 【現状と課題】

竜丘地区には、古墳や灯籠流しなど他に誇れる史跡や祭りがああります。また、江戸時代からの寺子屋、大正時代の自由教育活動を基盤とした活発な地域活動、公民館活動が行われてきました。小学校との連携を通して、地域の魅力を子供たちに伝えると共に、地域の人と学校が繋がる活動も行っています。公民館をはじめとした社会教育活動の中で地域を学び、また、100近い数の社会教育団体が活動を行い、多くの住民の学習や運動などの機会を作り出しています。

しかしながら、様々な伝統文化や地域活動が行われてきた当地域でも、現代社会の中で地域住民のつながりが希薄となり、伝統文化の継承や各種団体等のメンバーの世代交代などが大きな課題となっています。

社会の風潮や溢れる情報に流されるばかりでなく、特色ある歴史文化を守り育てると共に、一人一人が自立した人間形成につながるように、これらを活かした学習活動や人づくりを進めます。



野焼きした「はにわ」

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## (1) 生涯学習の推進

### 【公民館活動の充実】

誰でも気軽に学びたいことを学び、やりたいことに取り組める環境を整え、公民館活動を通して地域の活性化に繋がる活動を推進します。

社会教育活動の支援や様々なイベントの実施、地域課題を考えて講座を開くなど、住民が交流し、自分で考え学ぼうとする風土の更なる醸成を図ります。



水辺の楽校の自然講座

### 【自然環境学習の推進】

後世に豊かな自然環境を引き継いでいくため、単に環境保護活動に取り組むだけでなく、ギフチョウや身近な里山、水辺の楽校など、実際に自然と触れ合う中で、または講座を通して、環境意識を身につけてもらうよう努めます。

### 【社会教育活動の充実】

竜丘には他に誇れる社会教育団体が多数あります。行政の支援に頼らず自立し、独自の活動を行っています。このような団体を大切に、活動の充実に協力すると共に、新しい活動の支援や、若い人の思いを引き出すなど、老若男女がそれぞれの学びたい思いを実現できるよう、社会教育活動の充実に努めます。



ニューイヤーコンサート

## (2) 文化の伝承と充実

### 【「竜丘古墳の会」の活動の拡充】

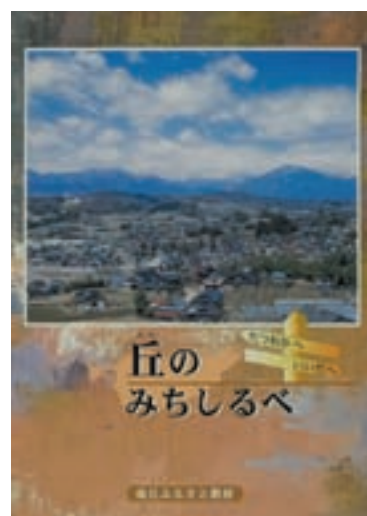
竜丘には確認されているだけでも142基の古墳があり、9基の前方後円墳が現存します。石室を有する古墳もあり、多くの古墳が開発に伴う破壊を免れ、地域住民の生活にとけ込んでいます。竜丘の原風景であるこの古墳群の保護活動を推進すると共に、学習会などを継続的に行い、地域の誇りとして古墳に対する地域住民の思いを盛り上げ、将来的には古墳公園の実現を目指します。



塚原二子塚古墳の草刈り

### 【竜丘を知る教材「丘のみちしるべ」改訂版の作成と利活用】

平成2年3月発刊の「村のみちしるべ」に続き、平成13年3月には「丘のみちしるべ」が発刊されました。ふるさと教材として小学校の授業でも活用され、子供たちが地域を知る貴重な資料となっていますが、発刊から10年以上が経過し、最新の情報への更新が求められています。また、中学校でも活用できる教材として内容を見直し、地域と学校とのつながりを深めることで、小中連携一貫教育へ関与していきます。将来的にはホームページで閲覧できる環境を目指します。



目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## 【伝統行事の継承】

竜丘にはおん火や獅子舞など、各地に伝統行事が存在します。しかし、伝統行事や文化の継承が課題となっています。文化祭での展示や講座、「丘の語部たち」や「丘のみちしるべ」などを通して若い世代に伝えていくとともに、住民が自ら知り、学び、残していく気風を育てるよう努めていきます。



時又のおん火

## 【自由画等の保存継承のための資料館建設】

大正時代に子供たちが描いた自由画は、竜丘における自由教育の象徴として保存されてきました。しかし、保存状態が十分とはいえず、補修と保存が喫緊の課題となっています。今後は、歴史的価値と公益性がある資料として補修・保存を進めていきます。また、自由画を通して地域に残された歴史的な資料全般の保存と検証に目を向け、将来的には資料館の建設を目指していきます。



岡島ふみ 作



北沢小太郎 作



竜丘市民運動会

### (3) スポーツ振興

#### 【スポーツに親しむ機会の創出】

竜丘では様々なスポーツ団体が活動を行っています。健康で豊かな生活を送るためにも、若者がスポーツに取り組む機会をつくり、また、お年寄りの方も適度な運動が行えるよう、ニュースポーツの推進やラジオ体操の普及など、スポーツの振興を図ります。

既存のスポーツ団体の使用が多く、新しくスポーツに取り組みたい方の体育館の使用が非常に難しくなっています。将来的には新たな多目的スポーツ施設の建設を目指していきます。

### (4) 家庭・保育園・学校・地域との連携

#### 【竜丘小学校及び緑ヶ丘中学校との地域連携の推進】

小学校のクラブ支援、丘のみちしるべ探索、放課後子ども教室、古墳まつりや水辺の楽校への参加協力など、小学校との連携を数多く行っています。小中連携一貫教育が進められる中、中学校との連携をいかに推進していくかが課題となっています。中学生には、地域住民の一員として地域行事に参加してもらえるよう配慮するとともに、PTAとの連携についても推進していきます。



文化祭で吹奏楽



水辺の楽校イベント

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## 【青少年の健全育成】

地域の中で子供たちが健やかに育つよう、公民館の育成委員会を中心に、子供たちや親子が自然や古墳などに親しむ機会を設けています。学校教育・社会教育と同様に、家庭教育も重要です。公民館事業を通して地域に親しんでもらうと同時に、親をはじめとし、家族が子供の健やかな成長に取り組めるよう支援していきます。また、成人式では改めて地域を知ってもらい、大人になっても竜丘に親しんでもらえるよう努めます。



おやす作り



竜丘地区成人式

## 5-1 地域産業の振興と地域ぐるみ支援による丘づくり

### 【現状と課題】

昭和40年代に入り国道151号が改良されたことに伴い、竜丘地区の商工業の中心は、これまでの時又から桐林や駄科などにシフトするなど、大きく様変わりをしていきます。

地元の小売店舗は、この10年間で10店舗程度に半減し、その多くは、大型店や全国チェーン店などの価格競争に巻き込まれ、経営的には厳しい環境が続いています。



商業集積（桐林）

竜丘地区内における農地は、およそ340haありますが、10年間でおよそ2haの宅地化が進んでいます。一方、専業農家は30戸余、兼業農家は120戸余を数えますが、担い手の高齢化、後継者不足、農業離れ等による遊休地の増加が懸念されます。

竜丘地区で働いている全従業員数の4割は製造業で、その数は、およそ1300名余に達しています。中でも7割の従業員が桐林にある事業所で働いており、モノづくりの集積が進んでいることが窺えます。事業所の中には、固有の技術を有している

ところもあり、子どもたちの見学会等を開催し、地元企業に対する理解を深めていく必要があります。リーマンショック以来、モノづくりを取り巻く環境は大きく変化し、常にグローバル化にさらされていることから、事業所と地域との接点が見出しにくい状況もあります。



花卉農家

## (1) 農・工・商・観光の振興

### 【集落営農による共同化の促進】

後継者不足や耕作放棄地の増加に対応し、関係者による話し合い等での共同による経営体をつくり、農地の集約化を図ります。また、「結い」の精神により農作業の共同化を進めます。

### 【地域資源を活かしたグリーンツーリズムの展開】

ホームステイによる農作業体験・里山体験など地域の歴史や自然に親しむ機会を設けることで、地域資源を活かした都市住民との交流を促進し、地域経済の活性化につなげます。

### 【既存観光資源の利活用】

時又灯ろう流しや初午はだか祭り、鈴岡城址公園つつじ祭りなど、既存の観光資源を利活用するとともに、ボランティアガイドを育成し、誘客等により地域経済の活性化につなげます。



初午はだか祭り（女性みこし）



鈴岡公園つつじ祭り

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料



## (2) 事業者と地域との連携

### 【地域ぐるみによる「地産地消」運動の展開】

草の根的に地産地消運動を展開していく手段として、地産地消を推奨するポスターやリーフレット等により販売の促進を図るとともに、地域全体で農業者や地元小売店等の経済活動を継続的に支援します。

### 【小・中学生による地元企業等の見学会の実施】

竜丘地区の子どもたちの地育力を育み、飯田に住んでいることに対する誇りを醸成するため、地元企業等の見学の機会を増やしていきます。

### 【地元企業との懇談等による経済活動の側面的支援】

「桐林環境産業公園連絡会」を中心に、地元企業と地域自治会役員との懇談会を開催し、地域として可能な支援策を検討するとともに、地元企業との連携強化を図ります。



遊休農地の活用

### 【新規就農者等への情報提供による遊休農地の利活用促進】

遊休農地の利活用を図るため、新規就農者等への土地利用のための情報提供を進めます。

### 【環境産業公園周辺の里山整備等による経済活動の促進支援】

環境産業公園周辺の里山の整備を進め、地元企業が活動しやすい環境を整えることで、環境と調和した工業集積地を目指します。



環境産業公園入口



嶋地区のまちなみ（エコハウジングビレッジ）

## 5-2 秩序ある適正な土地利用による丘づくり

### 【現状と課題】

幹線道路や生活道路に関しては、改良、補修が進められ、従前より改善されてきていますが、基本構想に係るアンケート結果にみられるように、「生活道路の改善」に対する地区住民の要望は、依然として高いウエイトを占めているのが実情です。

現在、竜丘地区には土地利用計画がありますが、拘束力はないため、現場では開発が先行し、秩序ある土地利用につながっていません。今後は、当該基本構想との整合性を図りながら土地利用計画を見直し、実効性が上がるものにしていく必要があります。

### （1）幹線道路・生活道路等の整備

#### 【幹線道路及び生活道路の整備促進】

長野原線（市道2-49号線）の改良促進を目指します。

国道151号並びに国道256号松尾交差点の渋滞緩和に向けた鈴岡バイパス（仮称）の早期ルート確定及び早期事業化を目指します。

三遠南信自動車道から国道151号へのアクセスとして、都市計画道路 大明神原線桐林工区における早期事業化を目指します。

竜峡五地区県道期成同盟会の活動を強化し、関係路線の改良促進等を目指します。

生活道路等の整備を推進します。

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## 【ミニ公園等の整備拡充】

日常生活の場に近いミニ公園等の整備拡充を進め、地区民の憩いの場、交流の場を創出していきます。

## 【雨水排水対策の促進】

飯田市の雨水排水基本計画に基づき、各区における水路改修等が計画的に実施できるよう、市に対し継続的な要望活動を行っていきます。



拡幅が望まれる県道時又中村線

## (2) 竜丘らしい原風景の維持

### 【土地利用の見直しと「特定用途制限地域」の導入】

当該基本構想に即し、竜丘地区土地利用計画を見直すとともに、小学校及び自治振興センター・公民館等を中心に文教ゾーンを対象とした「特定用途制限地域」を導入し、適正な土地利用を進めるためのルールづくりを進めます。

### 【適正な土地利用を行うための仕組みの導入】

桐林クリーンセンター周辺のギフトチョウが生息している緑豊かな里山と、塚原二子塚古墳周辺の農地を維持保全する方策等を検討するとともに、無秩序な開発等を防止することで、竜丘地区固有の財産を守っていきます。



市民農園と塚原二子塚古墳周辺

### 【塚原二子塚古墳及び臼井川秘境の利活用の拡充】

塚原二子塚古墳公園化構想に基づき、地区民の古墳への関心を高めるとともに、臼井秘境の歩道等の整備を行い、ウォーキングコースとして利活用を進めます。



黄金の滝

### (3) 桐林クリーンセンター後利用構想

#### 【桐林クリーンセンター後利用の検討及び明確化】

桐林クリーンセンターの後利用については、市及び南信州広域連合、竜丘地域自治会区長会で組織した「桐林クリーンセンター後利用等検討委員会」において検討するとともに、具体的な利用方策をまとめた構想づくりを進めます。

桐林クリーンセンター後利用構想については、市の第6次基本構想・基本計画の中で位置づけ、その実現を図ります。



桐林クリーンセンター

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料



飯田りんごん

## 6 地域力の強化による丘づくり

### 【現状と課題】

竜丘地区は、駄科、長野原、時又、桐林、上川路区の5つの区から成っており、各区における自治のための住民活動は、その独立性と自主性が重んじられてきました。

平成19年度から飯田市において地域自治組織が導入されたことを受け、これまであった竜丘自治協議会は竜丘自治会へ、各種団体等は竜丘地域づくり委員会へ編成されましたが、平成25年4月には、「竜丘地域自治会」に一本化が図られ、地域自治を進めるための組織強化が図られたところです。

こうした中、少子高齢化の進行や急激な宅地化に伴い、各区においては様々な問題が発生しています。高齢者世帯の組合脱退やアパート入居者等による組合への未加入など、自治の基礎単位である組合の未加入者が増加し、コミュニティを維持することが困難な状況が出始めてきています。

基本構想に係るアンケート結果からは、「地区における役が多い」「近所とのつながりが希薄になってきている」「地域のしがらみ強い」との指摘もあり、住民自治組織の担い手不足と相俟って、地域力の低下が懸念されます。

各区においては、今後とも、転入者を暖かく迎え入れ、各行事等へ参加するよう積極的に声をかけ、交流の場を広げていくことが重要です。

一方、住民自治組織の継続的な活動については、役員が2年ごとに交替するため、十分担保されているとは言いがたく、その改善に向けた取り組みが求められています。

## (1) お互いに理解し合える地域づくり

### 【組合加入の促進】

アパート住まいや高齢者世帯の増加に伴い組合未加入者が増加傾向にあります。

住民自治組織である地域自治会の安定的な財源確保や住民同士の交流を促進するため、組合加入を積極的に推進します。



市政懇談会

## (2) 地域の共益的活動への参加促進

### 【住民自治を理解促進するための講演会・学習会の開催】

自治体の憲法ともいわれる「飯田市自治基本条例」に規定されているまちづくりの主体である市民の役割や、市・市議会及び市民との関係性、さらには共益的活動の重要性等について学習の場を設けるなど、「地域自治」を推進するために必要な人づくりに力を入れていきます。

## (3) 住民自治組織等の見直しと強化

### 【地域自治を進めるための組織強化】

地域自治会と地域協議会との役割分担の明確化を図り、地域課題を解決するため有機的な連携に努めます。

地域課題を解決するための手段として、地域課題の抽出→地域自治会における解決策についての協議→地域協議会における協議→必要に応じて市へ提言といった一連のサイクルを確立し、地域自治会と地域協議会の関係性を明らかにします。



地域自治会設立総会

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## 【地域自治会役員選出基準の見直し】

地域自治会の委員の任期が2年のため、改選時における組織力の低下が懸念されています。このため、各委員会等の継続的な活動を十分できるよう、各区等と協議の上、地域自治会規約及び地域自治会委員等選出規程の見直しを行います。

## 【地域自治会費の徴収基準の見直し】

地域自治会費の減免の基準や徴収額及び徴収時期等を検証することで、問題点や課題等を明らかにし、現行の地域自治会費の徴収基準の見直しを行います。

## 【地域自治会ホームページの立ち上げによる情報提供機能の強化】

地域自治会独自のホームページを立ち上げるとともに、「地域自治会がどのようなことをやっているか、あるいは、何をしたか」など、リアルタイムに情報発信することで、地域自治会活動への理解促進につなげます。

## まちづくりを進めていく上での心構え

1. **た**くさんの宝発見と楽しい活動を重ねよう
2. **つ**よい人もやさしい人もつながる世話人を育もう
3. **お**もい出の表現・風景を次世代にプレゼントしよう
4. **か**んたんでないトラブルをエネルギーにしよう

まちづくり連続セミナー・延藤安弘氏による講演会(2012.9.10)から

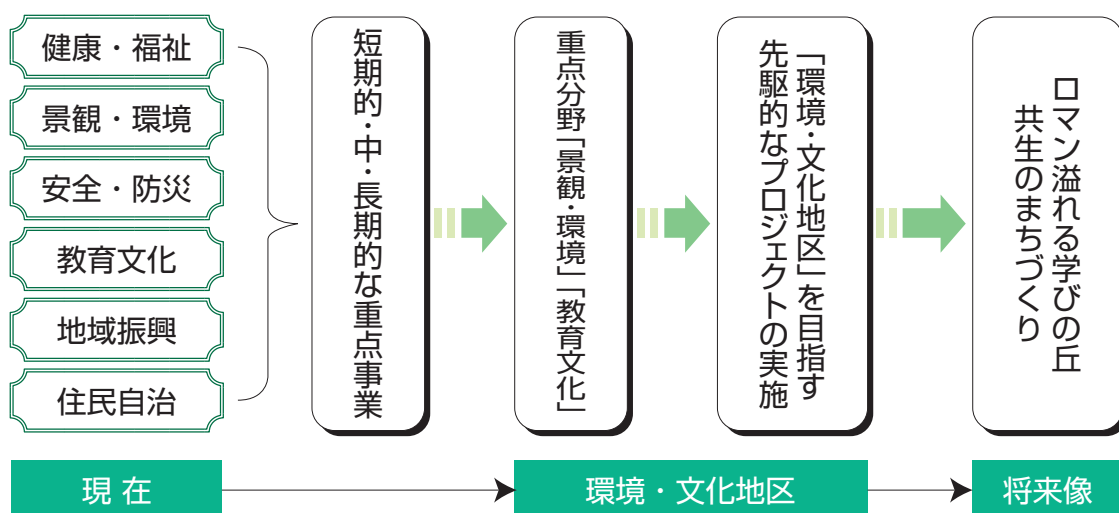
## 第4章 基本構想を実現するための戦略的取り組み

### 1 目指すべき将来像を実現するための手立て

基本構想を策定してもその取り組み自体が総花的になってしまうと、結果として、各事業や具体的な取り組みの成果が見えづらい、あるいは、成果が見えてこないことにつながりかねません。当然のことながら、限られた財源で全てを同時並行的に進めることはできません。実施する事業についても「あれもこれも」ではなく「あれかこれか」に絞り、より効果的な成果がでるようにしていく必要があります。

基本構想を実現するためには、次のような手順等により、その実現性を高めていくこととします。

- (1) 「重要度」及び「優先度」の観点から、各分野別の重点的な事業を位置づけます
- (2) 重点的な事業については、基本構想の期間である2030年までを「短期的」及び「中・長期的」に分け位置づけます
- (3) 短期的、中・長期的な重点事業を実施しながらも、竜丘地区の将来像である「ロマン溢れる学びの丘 共生のまちづくり」により近づける手段等として、竜丘地区の特徴的な分野をさらに伸ばすことで、他の分野の事業等を牽引します
- (4) 他の分野の事業を牽引する竜丘地区の特徴的な分野としては、自由教育で培われてきた文化的土壌に基づく「教育文化」の分野と、飯田市第4次基本構想・基本計画の重点プロジェクト「環境と調和したまちづくり（天竜峡エコバレープロジェクト）」を引き継ぐ「景観・環境」の分野と位置づけます
- (5) 竜丘地区としては、前項の「教育文化」と「景観・環境」の分野に重点的に取り組むことで、「環境・文化地区」を目指すこととし、平成19年に飯田市が都市宣言をした「環境文化都市」に対し貢献度が高い、先駆的な取り組みを行うこととします





## 2 短期的、中・長期的な位置づけによる重点事業

2030年までの短期的及び中・長期的な視点で、各分野における重点事業をまとめると、次の表のとおりとなります。

分 野	短期的重点事項	中・長期的重点事業
健 康 ・ 福 祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に集まれる施設や教室等の場づくりと参加促進</li> <li>・生活困難者を支える仕組みづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアなどの福祉マンパワーの育成</li> <li>・地域住民による助け合いの精神の醸成</li> </ul>
景 観 ・ 環 境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンボルフラワー・シンボルツリー等による快適環境の創出</li> <li>・小水力発電の実証実験の導入と太陽光発電の設置促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜丘らしい良好な景観づくり</li> <li>・エネルギー自給率の向上による持続可能な地域づくり</li> </ul>
安 全 ・ 防 災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災関係有資格等の人材登録制度の充実・活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区防災計画の策定と防災資機材等計画的導入</li> <li>・隣近所同志の目配り</li> <li>・声かけができる地域づくり</li> </ul>
教 育 文 化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜丘を知る教材「丘のみちしるべ」改訂版の作成と利活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由画等の保存継承のための資料館建設</li> <li>・若者（小中学生を含む）の公民館活動及び地域活動への参加促進</li> <li>・伝統行事の継承と復活</li> </ul>
地 域 振 興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消を推奨するポスター等による地域ぐるみ活動の着手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活道路及び幹線道路の整備促進</li> <li>・地域資源を活かした地域経済の活性化</li> </ul>
住 民 自 治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合加入の促進</li> <li>・地域自治会役員選出基準の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域自治会の組織強化と地域協議会との役割分担の明確化</li> </ul>

## 3 「環境・文化地区」とは

竜丘地区では、桐林クリーンセンターの建設を受け入れた後、治水対策事業エリアを一体的に捉え、飯田市第4次基本構想・基本計画の重点プロジェクトでもあった「天竜峡エコバレープロジェクト」を具体的に推進するため、対象地区の地元と

目 次

挨 拶

第 1 章

第 2 章

第 3 章

第 4 章

資 料

して、これまで市の取り組みに対して協力してきました。

その結果として、治水対策事業に伴う土取り場の「環境産業公園」には、経済産業省のエコタウン事業によるリサイクル関連企業が立地、環境技術開発センターの建設、さらには、嶋地区における住み手主体の環境共生型住宅団地の整備、マスタープラン室の設置、飯田市初となる地区計画の策定など「環境と調和したまちづくり」を実現するため、様々な取り組みがなされてきました。



リサイクル関連企業の立地

「環境と調和したまちづくり」は、今では言い尽くされた言葉ではありませんが、その当時から既に、貢献性が高い先駆的な取り組みが、竜丘地区においてなされていたのです。

こうした歴史的経過を踏まえると、竜丘地区における特徴的な取り組みは、天竜峡エコバレープロジェクトを中心とした環境への取り組みと自由教育で培われてきた文化的土壌に基づく教育文化の取り組みとであることが確認できます。

竜丘地区が目指す「環境・文化地区」とは、飯田市の環境文化都市宣言にもあるように、「環境への配慮」に留まっていたこれまでの環境と調和したまちづくりから、様々な日常の活動を「環境を優先」する段階へ発展させ、自由教育で培った文化的取り組みをさらに深化させながら、新たな価値観や文化を創造していくことを意味しています。

このように私たちは、まちづくりのプロセスとして「環境・文化地区」を経験・体感することで、将来像である「ロマン溢れる学びの丘 共生のまちづくり」を実現するための環境を整えていかなければなりません。

## 環境文化都市宣言

平成19年3月23日決議

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

## 沿革

### ○明治以降の主な沿革

- 明治3年 南原橋1号完成（現在13号）
- 明治4年 飯田藩を廃止飯田県となる  
戸籍法により駄科・長野原・時又・上川路・桐林の五カ村が飯田県第十二区画となる
- 明治5年 飯田県十二区が廃止され、下川路村を加え筑摩県第百五十三区となる
- 明治5年 駄科村で学校開設 以後小校の開設相次ぐ
- 明治6年 筑摩県第百五十三区が筑摩県第二十大区となる
- 明治8年 信夫村発足
- 明治14年 「深山自由新聞」が飯田で発刊される 社主 森多平
- 明治14年 信夫村解村
- 明治18年 時又村外五カ村の連合村成る
- 明治22年 下川路村を分離して竜丘村成立
- 明治23年 各部落で財産区設置、時又へ竜丘駐在所開設
- 明治24年 ウォルター・ウェストン卿 時又から天竜川を下る
- 明治26年 竜丘尋常高等小学校落成
- 明治28年 竜丘赤十字奉仕団の設置
- 明治30年 時又天竜橋1号完成
- 明治34年 時又に郵便取扱所が設置される
- 明治38年 竜丘婦人会発足
- 明治41年 時又天竜橋2号完成
- 明治40年 竜丘尋常高等小学校発足
- 明治42年 竜丘村消防組発足
- 明治43年 国の信用組合法を受け、無限責任組合である竜丘信用組合が設立 農家への融資が始まる
- 明治44年 竜丘青年会発足、竜丘処女会発会、時又商工会発足
- 大正1年 鈴岡公園開園式
- 大正2年 竜丘電気生産組合が全国で初めて設立許可
- 大正3年 信産銀行時又支店開業（後、飯田銀行～八十二銀行）
- 大正4年 竜丘電気生産組合の電燈が村内にとる
- 大正5年 郵便局に特設電話が開通し村内に電話が入る、竜丘壮年団発足
- 大正7年 竜丘小学校で自由教育始まる（木下紫水）
- 大正8年 竜丘小学校で全国自由画展が開催される
- 大正9年 竜丘村役場庁舎竣工、養蚕業の発展に伴い竜丘販売利用組合が設立
- 大正11年 久米川発電所完成
- 大正12年 学校で野口雨情・中山晋平の童謡講習会が開かれる
- 大正14年 「竜丘母の学校」始まる

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

昭和2年	天竜峡まで電車開通（伊那電気鉄道）
昭和5年	竜丘時報発刊、時又仏教会による灯籠流し始まる、竜丘図書館開設
昭和9年	竜丘村季節託児所が開設される（駄科、時又）
昭和10年	天竜橋3号完成、女子消防団発足
昭和14年	満州農業移民開始
昭和15年	竜丘男女青年団発足
昭和16年	竜丘村国民学校開校
昭和18年	竜丘電気利用組合解散
昭和19年	農業団体の戦時統制を目的に竜丘農業会が設立
昭和21年	時又商工会発足、竜丘連合青年会発足、竜丘農民組合結成
昭和22年	教育基本法公布、学校教育法により竜丘小学校と竜丘中学校が開校される
	竜丘村消防団発足、第1回全村運動会
昭和23年	竜丘村公民館設置、竜丘農業協同組合設立
昭和24年	竜丘村農業改良委員会発足
昭和25年	時又保育園年間保育開始
昭和27年	竜西一貫水路第1期工事始まる（完成は36年）
昭和31年	一市七カ村が合併し新飯田市発足 合併により役場は市役所竜丘支所となり、学校は飯田市立竜丘小学校、竜丘中学校となる、竜丘文化祭発足、新生活運動始まる
昭和32年	竜丘自治協議会が発足、竜丘有線放送開始
昭和33年	飯田市立竜丘中学校が廃校になり、飯田市立緑ヶ丘中学校竜丘部となる 国道151号改良、毛賀沢橋から城陸井まで工事が進む
昭和34年	台風15号（伊勢湾台風）により多大な被害を受ける 新日赤奉仕団発足
昭和35年	飯田市商工会議所竜丘支部設立 支部の下に時又商栄会、駄科商栄会を置く、竜丘老人学園開設
昭和36年	緑ヶ丘中学校竜丘部を廃止し、全生徒緑ヶ丘中学校に登校する 梅雨前線豪雨により天竜川とその支流が氾濫し、未曾有の被害を受ける（三六災） 駄科城陸地帯に旭松工場を誘致する
昭和37年	竜丘地区全区水道完備
昭和38年	国道151号改良工事、久米川橋から中村交差点まで完成する 長野原地域の大井に竜西一貫水路の水が流れる
昭和39年	桐林保育園と駄科保育園が統合して竜丘保育園となる
昭和41年	国道151号、竜丘地区全線舗装が完成する 時又地籍の護岸工事に伴い、新川橋を上げて国道を付け替え、関係地域を嵩上げる（移転改築家屋30戸） 竜西一貫水路、上川路へ放水が始まり竜丘全域への通水可能となる

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

- 昭和42年 八十二銀行時又支店閉業
- 昭和43年 飯田信用金庫時又支店が開店する
- 昭和44年 国道151号と大井の立体交差工事が完成する 国道151号・桐林バイパスが完成、開通パレードが行われる
- 昭和46年 竜丘自治協議会で、郷土博物館誘致に塚原二子塚古墳を取り上げ市に働きかける
- 昭和49年 鈴岡城跡が長野県史跡指定となる  
竜丘地区近郊七農業協同組合が合併による飯田市農業組合の設立  
飯田市考古学資料館が開善寺地籍に完成する 公民館に民俗資料委員会が設置される
- 昭和51年 旧竜丘公民館の改築、竣工式が行われる 飯田市立竜丘小学校の改築
- 昭和53年 市営住宅長野原団地ができる
- 昭和54年 第一回人形劇カーニバルが始まる 「竜丘村を考える」講座を市民大学講座として開催、以後連続開催される
- 昭和55年 時又灯籠流し飯田市三大祭りに指定
- 昭和56年 野口雨情の歌碑が建立し除幕式が行われる  
竜丘婦人団体連絡協議会が発足、婦人の社会参加を積極的に進める
- 昭和57年 桐林区民センターが竣工する
- 昭和58年 竜丘小学校校舎全面改築竣工
- 昭和60年 長野原区民センターが竣工する
- 昭和61年 駄科新井原地籍にモーター類似施設建設の計画があり、自治協議会をはじめ各種団体が結束して反対運動を進め、建設が不成立に終わる
- 昭和62年 治水対策の土取り場について竜丘自治協議会と飯田市との協議がなされる  
竜丘青少年センター完成し落成式が行われる
- 平成元年 ギフチョウが市の天然記念物に指定されるとともに、環境庁から桐林上段地籍が「ふるさといきものの里」と認定される  
桐林クリーンセンターが完成し本格稼働、竜丘保育園の新築
- 平成2年 ギフチョウの保護運動が認められ「第五回ムトス飯田賞」を受賞する  
上川路公民館の新築、天竜川治水対策事業マスタープランが提示される
- 平成4年 天竜川治水対策事業起工式が行われる 竜丘地区基本構想、基本計画策定事業案がまとまるものの途中で頓挫
- 平成6年 「公民館建設委員会」が公民館建設にあたって地域住民からのアンケートをまとめ、その結果を公表  
東京竜丘会の創立総会が東京で開催される
- 平成7年 県道駄科大瀬木線の駄科バイパスの開通  
竜丘公民館高齢者学級「大人の学校」が発足
- 平成8年 天竜川治水対策事業川路・竜丘地区築堤工事が始まる
- 平成9年 県史跡指定の「馬背塚古墳」の改修工事が始まる

- 天竜川治水対策事業の川路・竜丘地区盛土着工記念式典が開催される  
竜丘地区内で特定環境保全公共下水道工事が始まる
- 平成10年 桐林と駄科を結ぶ「新川さる橋」が完成
- 平成11年 南信州広域連合と飯田市、竜丘・伊賀良両自治会が新焼却場建設に係る調印を行う 新公民館建設に向け竜丘全戸で寄付積立が始まる
- 平成12年 新公民館建設用地について、飯田市と地権者組合との間で調印が取り交わされる 新焼却場建設に係る調印式が行われる  
治水対策事業土取り場跡地の「環境産業公園」が完成
- 平成13年 JICA研修生が竜丘公民館へ来館、以後研修による交流が始まる  
治水対策事業によりJR飯田線の路線付け替えが完了し新路線での運行開始 竜丘公民館竣工記念式典が行われる  
地域の歴史を学ぶ教材「丘のみちしるべ」を発刊
- 平成14年 治水対策事業完成式典が行われる 治水対策事業で生まれた「水辺の楽校」でオープニングイベントを開催
- 平成15年 新焼却場の竣工式典が行われる  
旧竜丘公民館が時又ふれあいセンターとして時又区民の活動の拠点となる  
特定環境保全公共下水道「竜丘浄化センター」が完成し通水式が行われる
- 平成16年 飯田市による「地域自治組織」の中間報告がなされる  
「大座二号公園古墳」を嶋地籍の第二公園へ移築する  
竜丘自治協議会における「地域自治組織検討委員会」の発足
- 平成17年 古墳公園・臼井秘境遊歩道の整備を進めるため整備委員会が研究と実践を始める 時又嶋地籍に企業人材確保住宅が完成し竣工式が行われる  
飯田市で初めて嶋地区に地区計画、地区整備計画を導入し住民参加型で決定
- 平成18年 桐林区において万寿山開園五十周年式典が行われる  
「竜丘地区地域自治組織」の原案を検討委員会で協議 自治協議会がまとめ、各戸に配布意見を聞く  
竜丘の子どもを守る会が発足
- 平成19年 飯田市自治基本条例が施行される 市条例に基づき竜丘地域自治区が定められる 住民自治組織として、竜丘自治会と竜丘地域づくり委員会の二つの組織が設置される
- 平成20年 竜丘地区土地利用計画検討委員会が立ち上がり、土地利用方針及び地域景観計画の検討が始まる  
古墳を後世に引き継ぐための検討委員会が設置される
- 平成21年 竜丘地域土地利用方針及び竜丘地域景観計画が飯田市都市計画審議会において決定、屋外広告物の基準を市の基準よりも強化する  
旧桐林クリーンセンターの解体事業が始まる

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

- 平成22年 飯田市自治活動組織に関するアンケート調査が実施される  
天竜橋4号が完成
- 平成23年 古墳を後世に引き継ぐための構想が提出される  
飯田市駄科コミュニティ防災センターが竣工、当該施設に関し、駄科区が指定管理者の指定を許可される  
鈴岡城址公園百周年記念式典が開催される
- 平成24年 竜丘地区基本構想策定委員会を設置、まちづくり連続セミナーを契機にまちづくりの学習及び検討が始まる  
竜丘自治会と竜丘地域づくり委員会との組織の一本化について検討  
平成14年から活動している「みんなの家 ぬくぬく」がムトス賞を受賞
- 平成25年 竜丘自治会と竜丘地域づくり委員会が一本化され、新たな住民自治組織「竜丘地域自治会」がスタートする  
古墳を後世に引き継ぐための構想の実現に向け、「竜丘古墳の会」が発足  
竜丘地区基本構想案を竜丘地域自治会役員会において決定、構想案を竜丘地域協議会で審議し報告を受ける



大正時代当時の時又港



竜丘村役場



竜丘電気利用組合発電所（新川）



昭和31年 飯田市に合併

## 基本構想策定の経過（開催日／開催会議名／開催内容）

### 【準備会】

- ・平成23年7月  
竜丘自治会において竜丘基本構想策定の必要性が提起される
- ・平成23年12月  
竜丘自治会及び竜丘地域づくり委員会の役員からなる企画調整会議において、策定について提案
- ・平成24年1月  
竜丘地区基本構想・基本計画の進め方検討委員会（準備会）の設置
- ・平成24年3月  
検討委員会（準備会）からの答申を受け、基本構想策定を決定

### 【全体会】

- ・平成24年6月27日  
第1回基本構想策定委員会 委嘱状交付
- ・平成25年4月26日  
第2回基本構想策定委員会／取り組み経過報告、アンケート結果 今後の進め方と意見集約
- ・平成25年11月14日  
第3回基本構想策定委員会／構想（素案）について協議
- ・平成25年12月2日  
第4回基本構想策定委員会／構想（案）について協議・決定

### 【まちづくり連続セミナー】

- ・平成24年7月18日  
基本構想策定委員会プレ全体学習会（防災まちづくり講演会）
- ・平成24年8月22日  
基本構想策定委員会全体学習会（長浜市高月雨森のまちづくり）
- ・平成24年8月29日  
基本構想策定委員会全体学習会（住民自治と公民館活動）
- ・平成24年9月10日  
基本構想策定委員会全体学習会（まちの縁側づくり）
- ・平成24年9月28日  
基本構想策定委員会全体学習会（コミュニティが元気になるコツ）

### 【分科会】

#### ①健康・福祉分科会

- ・平成24年9月21日

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料



- 第1回保健・福祉分科会／福祉健康委員会の活動等について
- ・平成24年10月17日
- 第2回保健・福祉分科会／アンケートの設問項目について
- ・平成24年11月14日
- 第3回保健・福祉分科会／テーマ設定、現状と課題について
- ・平成24年12月11日
- 第4回保健・福祉分科会／テーマに基づいた現状と課題について
- ・平成25年4月10日
- 第5回保健・福祉分科会／まちづくり方向性について

## ②景観・環境分科会

- ・平成24年9月21日
- 第1回環境・景観分科会／アンケートの設問項目について
- ・平成24年10月19日
- 第2回環境・景観分科会／現状と課題について
- ・平成24年11月13日
- 第3回環境・景観分科会／過去と現在の比較
- ・平成24年11月27日
- 第4回環境・景観分科会／現状と課題について
- ・平成24年12月13日
- 第5回環境・景観分科会／現状と課題、まちづくりの方向性
- ・平成24年12月20日
- 第6回環境・景観分科会／現状と課題、まちづくりの方向性
- ・平成25年4月18日
- 第7回環境・景観分科会／まちづくりの方向性について

## ③安全・防災分科会

- ・平成24年9月3日
- 第1回安全・防災分科会／アンケートの設問項目について
- ・平成24年10月2日
- 第2回安全・防災分科会／アンケートの利用方法について
- ・平成24年12月17日
- 第3回安全・防災分科会／現状と課題について
- ・平成25年4月11日
- 第4回安全・防災分科会／まちづくりの方向性について

## ④教育文化分科会

- ・平成24年8月19日
- 第1回教育・文化分科会／現状と課題の視点について

- ・平成24年 9月21日  
第2回教育・文化分科会／現地視察
- ・平成24年10月 8日  
第3回教育・文化分科会／現状と課題について
- ・平成24年12月19日  
第4回教育・文化分科会／現状と課題、まちづくりの方向性
- ・平成25年 3月 1日  
第5回教育・文化分科会／まちづくりの方向性について
- ・平成25年 4月11日  
第6回教育・文化分科会／まちづくりの方向性について
- ・平成25年 9月25日  
第7回教育・文化分科会／文章編について

#### ⑤地域振興分科会

- ・平成24年 8月 5日  
第1回地域振興分科会／今後の取り組みについて
- ・平成24年 9月24日  
第2回地域振興分科会／現状と課題及びアンケートについて
- ・平成24年10月28日  
第3回地域振興分科会／現地視察（環境産業公園ほか）
- ・平成24年11月22日  
第4回地域振興分科会／土地利用計画と景観形成について
- ・平成24年12月17日  
第5回地域振興分科会／現状と課題、まちづくりの方向性
- ・平成25年 1月29日  
第6回地域振興分科会／アンケート結果について
- ・平成25年 4月10日  
第7回地域振興分科会／意見集約、まとめについて

#### 【分科会リーダー・サブリーダー会議】

- ・平成24年 7月27日  
第1回会議／分科会の進め方、データ等による現状把握 アンケート調査の実施について
- ・平成24年 8月20日  
第2回会議／ワールドカフェ及びワークショップの手法 会議のまとめ方、アンケート調査について
- ・平成24年 9月19日  
第3回会議／住民アンケートの実施方法及び回収方法、住民アンケートの調査内容について

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

- ・平成24年10月10日  
第4回会議／住民アンケートの実施方法、調査内容について
- ・平成24年10月27日  
第5回会議／住民アンケートの実施方法、調査項目について
- ・平成25年1月15日  
第6回会議／住民アンケートの回収結果及び分析 こどもアンケートの項目、実施方法等について
- ・平成25年3月14日  
第7回会議／アンケートの集計及び分析、今後の進め方について
- ・平成25年4月19日  
第8回会議／分科会の意見集約結果と全体会について
- ・平成25年5月24日  
第9回会議／アンケートを参考に将来像を考える
- ・平成25年6月10日  
第10回会議／素案の前提条件、将来像、基本目標について
- ・平成25年7月9日  
第11回会議／将来像、将来像を実現するための基本的な考え方
- ・平成25年8月1日  
第12回会議／分野別の基本的な考え方と取り組みについて
- ・平成25年9月5日  
第13回会議／基本構想の目次案、優先度・重要度 文章編の取り組みと進め方について
- ・平成25年10月18日  
第14回会議／基本構想素案及び策定に必要な項目について
- ・平成25年11月24日  
第15回会議／基本構想（案）について
- ・平成25年12月10日  
竜丘地域自治会へ基本構想（案）を提出

## 竜丘地区基本構想策定委員名簿

分科会	氏名	地区	所属団体
健康・福祉	◎伊坪裕司	長野原	竜丘自治会長長野原副区長
	○夏目和人	桐林	福祉健康委員会地域福祉部副部長
	大見新一	時又	竜丘自治会時又区長
	今村正道	長野原	福祉健康委員会委員長
	長沼豊美代	桐林	福祉健康委員会健康推進部・上川路区代表
	森香代子	上川路	総務企画委員会女性委員
	加藤守孝	駄科	駄科区推薦
	斉藤光男	桐林	桐林区推薦
	佐藤克郎	長野原	民生児童委員協議会会長
	岡島篤子	時又	民生児童委員協議会副会長
内田雄一	時又	市議会議員	
環境・景観	◎今村康雄	時又	環境委員会委員長
	○新井文明	駄科	環境委員会副委員長（会計）
	下平悟	時又	竜丘自治会時又副区長
	長谷部進	上川路	竜丘自治会上川路区長
	東海林幸代	長野原	環境委員会副委員長
	北澤八重	駄科	総務企画委員会女性委員
	宮下隆人	長野原	長野原区推薦
	松村彰	桐林	桐林区推薦
	下田洋一	時又	竜丘小学校PTA時又支部長
	今村美智子	桐林	竜丘小学校PTA桐林支部長
下平勝熙	桐林	市議会議員	
安全・防災	◎今村悦夫	長野原	安全委員会長野原区代表
	○松下秀保	桐林	竜丘自治会桐林副区長
	木下淳	上川路	竜丘自治会上川路副区長
	三浦廣美	長野原	安全委員会委員長
	加藤直樹	時又	安全委員会副委員長
	中田弘子	桐林	総務企画委員会女性委員
	伊東正直	駄科	駄科区推薦
	今村仁	時又	時又区推薦
	吉川久仁子	桐林	赤十字奉仕団竜丘分団分団長
	今村照子	長野原	赤十字奉仕団竜丘分団副分団長
小倉拓矢		飯田市役所竜丘会	
教育文化	◎木下和彦	時又	竜丘公民館長
	○中島かおり	長野原	長野原区推薦
	吉川芳夫	駄科	竜丘自治会駄科区副区長

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

- 目次
- 挨拶
- 第1章
- 第2章
- 第3章
- 第4章
- 資料

分科会	氏名	地区	所属団体
教育文化	小林 泉	長野原	竜丘自治会長長野原区長
	木下 雅義	上川路	公民館企画委員長
	高橋 伸幸	桐林	公民館文化委員
	原田 照子	長野原	総務企画委員会女性委員
	増田 正昭	上川路	上川路区推薦
	近藤 重光	長野原	竜丘小学校PTA 長野原支部長
	宮崎 貴子	上川路	竜丘小学校PTA 上川路支部長
	中島 武津雄	桐林	市議会議員
地域振興	◎伊原 聰	時又	飯田商工会議所竜丘支部支部長
	○金子 至	上川路	上川路区推薦
	中平 龍興	駄科	竜丘自治会駄科区長
	高島 勝秀	桐林	竜丘自治会桐林区長
	橋爪 文子	時又	総務企画委員会女性委員
	久保田 昭仁	時又	時又区推薦
	北澤 輝	桐林	飯田商工会議所竜丘支部工業部長
	嵯峨座 穂及美	駄科	竜丘小学校PTA 駄科支部長
	下平 恒男	駄科	農業委員
	熊谷 和美	上川路	農業委員
	前澤 盛富		飯田市役所竜丘会

※策定委員の所属団体名及び役職名等は、委嘱時によるものです。(◎分科会リーダー／○分科会サブリーダー)

※本構想の策定にあたっては、NPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師事務局長 平澤和人氏よりご助言を頂きました。



まちづくり連続セミナー（第3回）



リーダー・サブリーダー会議



リーダー・サブリーダーによるワークショップ



策定委員会全体会

## 住民・こどもアンケート結果

### ①住民アンケート

- ・調査時期 平成24年11月中旬から12月中旬まで
- ・対象者 組合加入者、消防団、高齢者クラブ、竜丘小学校クラス役員ほか306名
- ・回収結果 228名（回収率74.5%）

### ②こどもアンケート

- ・調査時期 平成25年1月中旬から1月下旬まで
- ・対象者 飯田市立竜丘小学校5年生及び6年生児童 152名
- ・回収結果 140名（回収率92.1%）

※主なアンケート結果を抜粋（数字は選択した人数）

#### 【住民アンケート】

##### ■問7 竜丘は現在どんな地域だと思いますか。（3つまで選択）

・自然が豊か	121
・文化遺産が残っている	87
・伝統行事が残っている	95
・文化活動が盛ん	60
・商・工業が盛ん	3
・いろんな産業が混じっている	17
・宅地化が進んでいる	107
・特徴や自慢できるものがない	23
・魅力がないところ	23
・その他	9
・未回答	1

自然が豊かで、伝統行事や文化遺産が残っており、文化活動が盛んな地域であるとの評価が多い。一方、宅地化が進んでおり、住宅が増えたり、田畑が減少していると感じている人も多い。

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

■問8 竜丘で住みやすいと思う点は何ですか。(3つまで選択)

- ・自然や文化遺産……………43
- ・空気・水がきれい……………64
- ・気候が温暖……………145
- ・通勤・通学に便利……………57
- ・地域の結びつきが強い……………37
- ・買い物に便利……………66
- ・人情が豊か……………31
- ・静かで落ち着いている……………60
- ・住宅や商店が密集していない……………47
- ・その他……………4
- ・未回答……………4

気候が温暖で、空気や水がきれいである。また地域全体が静かで落ち着いており、買い物にも便利との意見が多い。地域の結びつきが強く、人情が豊かで、通勤通学にも便利であるとの意見もある。

■問9 竜丘で住みにくいと思う点は何ですか。(3つまで選択)

- ・娯楽施設が乏しい……………59
- ・「しきたり」が強い……………55
- ・近所付き合い煩わしい……………26
- ・排他性が強い……………31
- ・環境が破壊されている……………14
- ・買い物に不便……………47
- ・下水道が完備していない……………9
- ・道が狭い……………116
- ・医療施設が少なく不安……………52
- ・交通の便が悪い……………50
- ・その他……………12
- ・未回答……………13

道路が狭いが一番多い。娯楽施設・医療施設が少ないなど、施設の充実での不満を上げている人が多い。また生活面では、「しきたり」や排他性が強く外からの者を受け入れにくい、近所付き合いが煩わしいなどが上がっている。一方、交通の便が悪い、買い物に不便との回答も多い。

**■問10 竜丘で自慢できるものは何ですか。(複数回答可)**

・ 恵まれた自然環境	58
・ 伝統行事	140
・ 河岸段丘上の農村風景	12
・ 古墳	88
・ ギフョウと保護活動	52
・ 自由画教育の歴史	13
・ 公民館と社会教育活動	34
・ 開善寺など歴史的建造物	45
・ 鈴岡城址公園・万寿山	90
・ 天竜川に関するもの	29
・ サンヒルズ・運動公園	25
・ 環境産業公園・周辺企業群	9
・ 考古資料館・民俗資料館	9
・ その他	1
・ 未回答	8

様々な伝統行事があることを自慢と考えている人が一番多い。また、古墳、鈴岡城址公園・万寿山のほか、恵まれた自然環境やギフチョウの保護活動など自然の豊かさを評価する人も多い。公民館と社会教育活動、自由画教育の歴史なども自慢なこととして評価している。

**■問11 竜丘で改善したい所は何ですか。(3つまで選択)**

・ 幹線道路の交通渋滞	80
・ 狭い生活道路	131
・ 雨水排水処理	45
・ 河川の整備	57
・ 現状以上の開発住宅化	27
・ 屋外広告・看板	11
・ 不法投棄	74
・ ポイ捨て	72
・ その他	8
・ 未回答	3

生活道路の狭さを指摘する人が一番多く、それに付随して交通渋滞を上げている人も多い。また、自然環境の観点から、不法投棄やポイ捨て、河川の整備を指摘する人も多い。



目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

■問12 あなたが今困っていることは何ですか。(複数回答可)

- ・一人暮らし…………… 2
- ・介護問題……………28
- ・嫁・婿不足……………17
- ・後継者問題……………21
- ・団体の役員が多い……………89
- ・地区の行事が多い……………73
- ・公共交通機関が不便……………37
- ・生活道路が狭い……………80
- ・交通渋滞・騒音……………18
- ・交通安全の確保……………22
- ・果樹消毒・家畜悪臭……………17
- ・買い物……………33
- ・知りたい情報が入らない…………… 5
- ・近所付き合い……………15
- ・防犯対策（街灯が少ない）…………… 37
- ・通院……………14
- ・就労の機会が少ない……………23
- ・女性団体の組織化と活動…………… 4
- ・消防団活動の維持……………13
- ・広場や公園等の不足……………30
- ・その他…………… 7
- ・未回答…………… 6

当該設問においても、生活道路が狭いことが上げられている。また、団体の役員が多い、地区の行事が多いとの意見も多数を占めている。公共交通機関の不便さ、防犯対策、買い物などにおいても困っていることが確認できる。また、介護問題、就労の機会が少ない、後継者問題、嫁婿不足なども課題になっていることが窺える。

■問15 竜丘で残したいもの、復活したいものは何ですか。(複数回答可)

①残したいもの

- ・古墳石仏等文化財…………… 115
- ・ギフチョウ保護活動……………69
- ・里山……………51
- ・伝統行事…………… 142
- ・景勝地……………92
- ・民俗資料……………19

・ 竜丘児童自由画	20
・ 伝統技術の伝承	25
・ その他	2
・ 未回答	16

伝統行事や古墳などの文化財、景勝地は多くの人が残したいと考えている。一方、ギフチョウの保護活動、里山など、豊かな自然環境を残したいとの意見も多い。

### ■問15 竜丘で残したいもの、復活したいものは何ですか。(複数回答可)

#### ②復活したいもの

・ 子供が遊べる川	118
・ ホタルの住める川	124
・ 人形浄瑠璃	7
・ 手作花火	10
・ 伝統技術(紙すきなど)	8
・ 水車小屋	18
・ 語り部	12
・ 帆かけ船	3
・ 久米川等の小水力発電	44
・ 地名(小字)	14
・ その他	2
・ 未回答	21

ホタルの住める川、子供が遊べる川など、美しい自然やきれいな川を復活させたいという意見が断然多い。過去において竜丘電気利用組合があった歴史的経過を踏まえ、久米川等の小水力発電の復活を望んでいる人も多い。

### ■問16 竜丘は将来どんな地域になったらいいと思いますか。(2つまで選択)

・ 農業の盛んな地域	9
・ 工業の盛んな地域	7
・ 商業の盛んな地域	4
・ 農工商のバランスが取れた地域	91
・ 住宅地として恵まれた地域	42
・ 自然が豊かな地域	47
・ 生活環境が整った地域	105
・ 教育文化が充実した地域	33

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

- ・福祉が充実した地域……………58
- ・現状のままで良い……………7
- ・その他……………2
- ・未回答……………2

目次

挨拶

第1章

第2章

第3章

第4章

資料

生活環境が整った地域、農工商のバランスの取れた地域、福祉が充実した地域がベスト3。

### 【こどもアンケート】

#### ■問3 竜丘地区をどんなまちにしたいと思いますか。(3つまで選択)

- ・水と緑に囲まれた自然あふれるまち……………60
- ・近所の人とふれあいが多いまち……………34
- ・工業・商業・農業が盛んなまち……………14
- ・犯罪や交通事故が少ないまち……………75
- ・お年寄りや障害がある人に親切なまち……………27
- ・公園・図書館など施設が充実したまち……………29
- ・安全な通学路・遊歩道があるまち……………19
- ・ゴミのポイ捨てがないきれいなまち……………42
- ・趣味やスポーツを気軽に楽しめるまち……………37
- ・地震や台風に強い安全なまち……………42
- ・その他……………7

犯罪や交通事故が少ないまちが一番多く、水と緑に囲まれた自然あふれるまち、ゴミのポイ捨てがないきれいなまちなど住環境を上げた人が多い。一方で、近所の人とふれあいが多いまち、お年寄りや障害がある人に親切なまちなど、住民のふれあいや福祉の観点からの意見も多数を占めている。

# 竜丘のみちしるべ

ほくたち、わたしたちのふるさと…竜丘の様々な名所・旧跡を訪ね、いにしえの人々の暮らしから、21世紀の今を考えてみよう。



凡例	
⊗	小学校
〒	郵便局
卍	寺
卍	お宮
●	史跡
△	三角点
—	橋
—	河川
—	道路
---	地区界線

